

新ニユース

シネスコ版

高新=ニ=ス No. 394
新編始=ニ=ス No. 222

No. 559

39.10.-2

一、晴れてご結婚

義宮さま華子さま

松の緑と白壁がひときわ美しい皇居。九月三十日は、義宮さま、津軽華子さまのご結婚式です。

黒松くすの木の木の大樹がそびえ時折野鳥の声がさわやかにきこえる賢所。皇太子夫妻、秩父、高松、三笠の各宮様、池田首相夫妻らが見守る中、午前十時すぎ遠く平安朝を偲ばせる黒の装束の義宮さま、華やかな色彩が静かに燃える十二単の華子さんが賢所に進まれ殿爾なご結婚の儀が行なわれました。

皇祖の神前に頭をかしづかれ、義宮さまがご結婚の誓いをたてられた後、神酒拝受の儀。華子さまは盃を飲み干されたいま、めでたく正仁親王妃殿下となられたのです。

一、あれから五年

伊勢湾台風

九月二十六日——。昭和三十四年のこの日、約五千の生命を奪ひ、実り豊かだった田畑を濁流に呑み込んだ魔の「伊勢湾台風」

あの日からはや五年今年もこの日を迎えた東海地方は、今、見事に立ち直ったのです。

九月の台風シーズンを迎える度に不安と焦燥の根源だった高潮防波堤もたくましく完成、鍋田干拓地もやっとその傷跡はいえ秋の収穫に余念がありません。

こうして見事に立ち直った伊勢湾台風の被災地です。

だがしかし、この拓かざる宿命を背負された人達の心の傷は果していえたのだろうか……。

今年もまたこの日がやってきました。今は亡き肉親の墓前にぬかずき、自然の猛威に怒り、そして悲しみを打ちつけたところで、あの余りにも凄惨だった伊勢湾の悲劇をかみ殺すことはできないのです。

4/6 F

205 F

621 F

(製作)
(配給)

中部日本新聞
北陸中日新聞

東京中日新聞
中映画社
中部日本映画社